

学生に望む

学 長 小 原 芳 明

学問は「？」に始まり「！」に終わると言われていますが、これからの4年間は各人にとっての「ナゼ？」を持って学修に努め、各人が「納得！」となる知識を修得してください。人間が各自に必要な衣食住確保のために働くことから解放されて空いた時間（ヒマ）を活かそうと生まれたのが学校です。

学校では将来社会で活躍するのに必要となる、あるいは手助けとなる知識や技術を修得することが目的となっています。毎日の努力で自分が抱く疑問を解決する知識を得るために、学び舎に対して、Enter with Respect, Leave with Knowledge の心構えを忘れないでください。どの学修レベルになっても、未知のことへの畏敬と謙虚さは、高等学問の基本だからです。

また、時間（ヒマ）は増やすことのできない、消費するだけの資源です。まさしく「少年老い易く、学なり難し」です。2つの作業を「ながら」でできることもあるが、多くはどちらか1つのためにしか時間を使うことができないのが現実です。

これから玉川の丘での大学生活が始まります。そもそも大学は真理の追究の場でしたが、近代に入り、より高度な知識、そして先端の技術を修得する機会にもなってきました。そのために多くのリソースが大学に集積されているのです。それを有益に活用するには、まず各人が「将来社会で何を実現したいのか」という夢を持つことから始まります。昔からこの丘で学ぶ生徒と学生を「玉川っ子」と呼んでいます。そして玉川っ子には「一画多い夢」を持ってもらいたいと創立者は願っていました。

吉田松陰は夢について次のように言っています。

夢なき者に理想なし、
理想なき者に計画なし、
計画なき者に実行なし、
実行なき者に成功なし。
故に、夢なき者に成功なし

さて、現代の高学歴化社会は学士号取得を社会進出の必要条件としています。しかし、これからは教育を受けた年数や修得した単位数の多少ではなく、どれだけ知識と技術を修得したのかが問われる時代です。この履修主義から修得主義へのシフトを今の社会は迎えようとしています。

大学での学習をより高めるための手段に5つのW(What, When, Where, Why, Who)と1つのH (How)があります。大学での学びの道は厳しいものですが、その厳しさを乗り越えてはじめて社会の評価が得られるのです。ここ大学では、学生が自分の課題を持って必要な知識を積極的に修得していくことが鍵となります。また、大学での1単位は1時間の授業に対して教室外で2時間の学習（予習と復習）を前提としています。授業時間割に「空き時間」があるのは、予習と復習のための時間として確保してあるのです。

本学はBlackboard@Tamagawa(Bb)を活用しての遠隔教育システムによる予習復習教材を配信しています。各授業計画はシラバスに明示されていますが、それは学生がより主体的に学習するために用意されたものです。加えて本学では新入生が大学での学習スタイルに馴染み、勉学を促進するためのFYE (First Year Experience) という初年次教育が推進されています。

これからの社会（日本国内外）活動では、一層の自己管理が求められます。その一つは自分の健康と安全の確保です。日本社会の国際化にともない、昔のような「日本の水と安全はタダ」ではなくなってきています。本学の周辺街も、昼から夜への状況変化は著しく、夜は決して安全とも健康的であるとも言えません。ひと時の快樂への誘惑も一段と強くなってきますが、そうした勧誘に打ち勝とうとの気持ちがあつてこそ、自覚と責任のある大学生です。社会へ巣立つ前の4年間で、さらなる自己管理能力を身につける機会としてください。

この丘では大学生の他に3歳の幼稚園児（K）から高校生（12年生）までの玉川っ子たちも一緒に学校生活を送っています。そうした玉川の教育環境を踏まえ、今日から最高学府に学ぶ者としての自覚、誇り、そして責任を持ってこの丘での生活を送ってください。